



美里地域の かんこ踊り

8月は市内各地で「かんこ踊り」が行われ、地域の夏の風物詩となっています。この名前の由来は、踊りで使われる鞆鼓^{かつこ}と呼ばれる特徴的な太鼓の呼び方がなまって「かんこ」となったようです。かつては多くの地域で見られたかんこ踊りも、少子化などの影響で中断していたり、数年に一度や秋に行われたりするなど、地域によって異なっています。

今回の歴史散歩では、美里地域のかんこ踊りを紹介します。

美里地域では、北長野祇園踊り、南長野かんこ踊り、桂畑地蔵踊りがあり、これらは毎年行われ、津市指定無形民俗文化財になっています。北長野祇園踊りと南長野かんこ踊りは、8月中旬に行われ、桂畑地蔵踊りは地蔵盆にあたる8月24日に行われます。かんこ踊りの起源ははっきりとは伝わっていませんが、桂畑地区では250年間一度も休むことなく実施されてきたといわれています。こうした踊りには五穀豊穡^{ごこくほうじょう}や先祖の供養、安産などの願いが込められています。いずれの地区も田植え姿に鞆鼓を抱え、背中には色とりどりの竹製の飾りや紙の束を背負いながら、昔から伝えられてきた踊りを披露します。

この夏、市内に伝わる素晴らしい伝統文化に触れてみてはいかがでしょうか。

(「広報津」平成22年8月1日号)

